

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　名　　城東

学校名　　森之宮小学校

学校長名　坂本 政隆

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・　　　　学校では、第6学年19名

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- ・国語科においては大阪市・全国の平均正答率を上回ることができている。特に「書くこと」「読むこと」については上回ることができている。
- ・算数科においても、大阪市・全国の平均正答率を上回ることができている。「データの活用」に関しては大阪市・全国から数ポイント低くなっている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語]

- ・「読む」「書く」を中心に「自分の考えを持つ」「友達の意見を聞く」といった力が児童についてきた。
- ・漢字の反復練習を多く行っている。

[算数]

- ・児童質問紙での「算数の勉強は大切だと思いますか」「算数の授業の内容はよく分かりますか」「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の肯定的な回答が非常に高いことから、モチベーションが高い中で授業に挑むことができている。
- ・基本的な計算問題の反復練習を行っているため、計算問題を苦手とする児童が少ない。
- ・一つの学級で数名の教員による見守り、声掛けを行うことで、苦手な児童に対する手厚い

質問紙調査より

- ・人権意識や規範意識とても高い
- ・いじめに対する認識は高い
- ・自己肯定感は低い
- ・読書に関しては、関心が低い

今後の取組(アクションプラン)

- ・本校は小規模校のため、教職員の数は少ないが、「全教職員はすべての子どもの担任」の共通理解の下、「互いに認め合い高め合う集団の育成」「考える、書く、聞き合う、話し合う、深く考える」「リーダーシップとフォロアーシップ」「当たり前のこととは当たり前に」できる子どもたちの育成に努める。
- ・「教わる」から「自ら学ぶ」子どもの育成」に務める。
- ・I C T機器を活用した学習方法の工夫していく。
- ・自分の考えを述べていく力の育成に努める。